

〈東北・新潟の活性化応援プログラム〉 2022年 助成団体活動成果レポート

助成団体

しゅふコミ

福島県郡山市

プロジェクト名

地域を繋ぐ6次化カフェ

■地域の課題

妊娠中に地域と繋がる場がないこと、そしてコロナ禍を経て子育てを取り巻くコミュニケーションが減少していることが課題です。夫婦間や地域間、そして私たちのような子育て支援側とのコミュニケーションなど、あらゆる場面でその減少を感じています。

特に、夫婦間のコミュニケーションは子育てにおいて非常に重要です。しかし、夫婦だけではコミュニケーションがうまくいかず、結果として母親が孤独感を抱えているケースが多く見受けられます。

■当団体の紹介

子育て中の母親を対象に座談会を開催しました。この座談会で出た課題を解決するための地域情報をまとめた冊子を作成し、行政を通じて母子手帳とともに配布しています。また、6次化商品を提供する託児付カフェを運営し、父親と母親がともに休息をとりながら、商品モニターとしての役割を担える場を提供しています。これにより、6次化事業者と消費者を繋ぐ仕組みを構築しています。





プロジェクトの概要

■背景・目的は？

夫婦のコミュニケーションを円滑にするためには、第三者が介入することが重要だと考えていました。そこで、妊娠中の夫婦を対象に地域と繋がる場を提供し、女性が産後に孤独を感じる状況を軽減することを目的として取り組みを行いました。

■具体的な活動は？

●実施日

5月21日、6月18日、7月23日、9月10日、10月15日、11月18日(全6回)

●場所

福島県郡山市緑町9-12 co-ba Koriyama

●人数

全6回 計24名

●参加者の声

- ・ 家事の可視化や産後のお母さんの状態、赤ちゃんとの接し方などを聞き、産後の生活や夫婦間のコミュニケーションをよりリアルにイメージすることができました。産後の不安もありますが、楽しみながら夫と協力して育児ができそうだと感じました。また、夫が妊婦体験をしたことも貴重な経験になりました。
- ・ SNSで知っていたつもりの情報でも、実際に体験し、現場の方の生の声を直接聞くことで伝わるが多く、改めて気づかされることがありました。
- ・ 病院だけでは知り得ない育児や子育ての情報を得られる良い機会だと思いました。
- ・ 初めての子どもなので、子育てのアドバイスをいただけたことが助かりました。例えば、「赤ちゃんを抱き上げる前に声かけをする」ことで言葉を覚えるサポートになるというアドバイスは実践してみたいです。
- ・ 産院で開催されるパパママ教室とは異なる視点でのお話があり、とても有意義でした。例えば、自分のメンタルが落ちるポイントや、離乳食に関する意外なアドバイスなど、目からウロコの内容が多かったです。
- ・ 不安な部分に具体的なアドバイスをいただき、対策を取れそうなこともあり、非常に役立ちました。

●工夫した点

産後のうつ状態や女性の孤独を回避するためには、産前(マタニティ期)にいかに地域と繋がるかが重要だと考え、対象者が分かりやすいよう「にんぷカフェ」という名称にしました。

「カフェ」という名前を使い、妊娠中のご夫婦が気軽に交流できる場となるよう意識しました。

福島県産の農家さんから購入したノンカフェインのハーブティーを提供し、大変好評をいただきました。

●メディア取材

<https://kiratto-f.com/interview/210/>

活動紹介として取材いただきましたが、にんぷカフェの様子も取り上げていただきました。

その他、新聞1社とテレビ取材を2度受けました。



夫婦一緒に学習



遠方からの参加も



看護師によるレクチャー



お世話の仕方も体験

■活動の成果は？

「妊娠中に地域と繋がる場」を作ることを目的として座談会を実施しました。

まだまだ妊娠中は「出産がゴール」と捉えられ、その後の子育てに備える時間とはなっていないかもしれませんが、「妊娠中が大切」というメッセージは十分に届けられたと感じています。講座ではZOOMも使用し、会津若松市や福島市など遠方からの参加もありました。

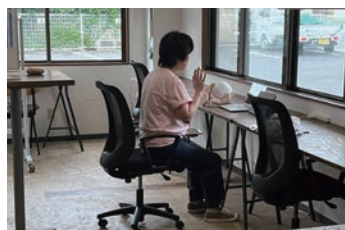
今回は、助成金を人件費として活用することができました。その結果、子育て経験が豊富な保育士、看護師、助産師といった専門家から直接学ぶ機会を提供することができました。このような交流の場は、1回だけでは意味がありません。継続して実施することが重要です。しかし、ボランティアだけではなかなか続けることが難しく、その点が課題でした。助成金をいただいたことで、より質の高い講座を継続して行うことが可能になりました。



妊婦体験の様子



沐浴の仕方を実践



講座前にZOOMで応答



テレビ取材の様子

団体からのコメント

前述の通り、継続が重要だと考えています。現在、物件を借りて常設の場を作る準備を進めています。

これまで6回にわたりイベントを実施したことで、実際に妊婦さんから話を聞く機会を得られ、より深いニーズを把握することができました。課題としては引き続き資金面がありますが、事業化に向けて一歩前進することができたと感じています。

物件を借りるにあたり、融資を申し込んでいます。事業化し、返済を進めていかなければならないため、不安もありますが、これを乗り越えて実現させたいと思っています。

郡山市桑野に物件を借り、「6次化カフェ」という名前で常設店舗を運営する予定です。この店舗では、子育てを軸に、地域の農産物や加工品の販売も行いたいと考えています。

妊娠中から地域と繋がる場を作りながら、事業化し継続できる形を構築していきます。